

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第116号



全国的に梅雨時となりましたが、地球温暖化のためか梅雨の範疇からはみ出すぐらい大変な豪雨が続いています。数十年に一度の豪雨が、毎年のように来るのかと恐怖を感じてしまうくらいです。近年の台風も大型化していますが、梅雨も単なる雨の季節では済まされない状況ですね。皆様は、影響はなかったでしょうか。

プチ・マギーズ

英国には、マギーズ・センターというものが、各地に建てられています。すべてが、建築デザインとして超一流ですが、それもそのはず、超一流建築家が設計をギフトしているからです。日本の建築家だと、黒川紀章氏や、元々、新国立競技場のコンペで選ばれていたザッハ・ハイドさんなども設計を寄贈されています。元はと言えば、このマギーズ・センターという施設は、がん患者さんが、ゆったりとお茶を飲むために作られたものなのです。Maggie Keswick Jencksという乳がんにかかった女性の発案で作られたもので、最初のものは1996年に建てられています。

日本の茶道でも茶室を作りますが、それよりはかなり大きく、建築会社の住宅展示場ぐらいの大きさがあります。何室かの部屋もあり、お茶を楽しんだり、カウンセリングを受けたりできる施設です。マギーズ・センターは公的なものでなく、国民の寄付で成り立っているというのも凄いですね。

日本でも、英国に倣って東京にマギーズ東京ができたのが2016年ですが、英国と違って、まだ東京以外には広がっていません。しかし、お茶を飲む文化として日本は英国に負けず劣らずだと思うので、潜在的には日本にも同じようなニーズがあると思いますし、お茶を飲むという行為は、単にのどを潤すということだけではないでしょう。

日本の茶室を見ても、お茶を点てる道具以外に、掛け軸や生け花、外の景色、自然の光、音を楽しむものでもありますが、お茶を飲む際に会話を楽しんだり、美しいものを共に愛でるといことも重要な要素だと思います。病院というところは、機能的なものなので、マギーズ・センターのコンセプトとは合致しない部分が多いのですが、何とかスペースを整備して、ちょっとお茶を楽しむための、英国とは違った今の日本で受け入れられるような空間を確保したいと願っています。



故黒川紀章氏設計

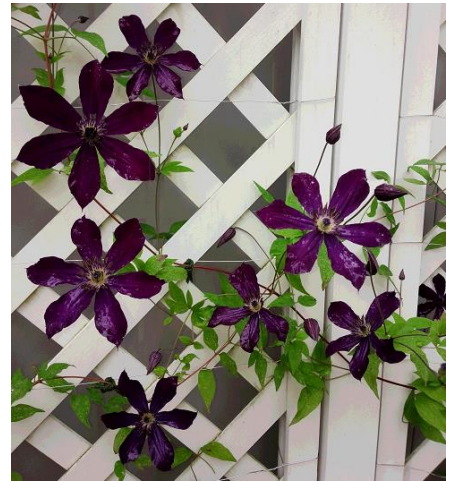


マギーズ東京

つるばらの季節から、クレマチスの季節へ

6月は、圧倒的につるばらの季節で、今年は多くのツルバラが咲きそろったこともあり、ある程度思い描いたような景色が描けたのではないかと思います。

今は、バラは新しい葉を伸ばしているタイミングで、花としてはクレマチスが咲きそろってきました。個人的には、クレマチスというと、紫のイメージですが、今は、アラベラと、ヴィクトル・ユゴーが咲いています。花には、人の名前が付くものも多いのですが、ヴィクトル・ユゴーは、『レ・ミゼラブル』の重厚なイメージよりは、花数も多く濃い紫が梅雨の合間の光の強さにはマッチしているようです。ユゴーが自分の名前が付いたこの花を見たらなんと感想を述べるでしょうね。



すずめの巣作り

例年、我が家の隣家の軒先に巣を作っていた、すずめファミリーなのですが、今年は我が家のアルベリック・バルビエというツルバラの茂みの中に巣を作りました。最初は、虫でも捕っているのかと思ってましたが、よく見ると、ひもや羽をくわえて運んでいました。あまり、すずめが茂みに巣を作るイメージがなかったので半信半疑でした。

そのうちに、しばらく雛の鳴く声ができるようになり賑やかでしたが、最近では聞こえないので巣立ったのだらうと思います。インターネットで調べると、雛が巣立つまでは約二週間のようなので、カラスや猫に狙われることも多いということで、無事巣立ってくれたようなのでほっとしています。ようやく、夏の剪定ができそうです。



MEMO

7月のがん化学療法科の予定

7月7日	診療応援(平出先生)
7月14日	診療応援(工藤先生)
7月21日	診療応援(平出先生)
7月23日	海の日
7月24日	スポーツの日
7月28日	診療応援(工藤先生)

